

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3143892号
(U3143892)

(45) 発行日 平成20年8月7日 (2008.8.7)

(24) 登録日 平成20年7月16日 (2008.7.16)

(51) Int.Cl.

B 4 2 D 15/00 (2006.01)

F 1

B 4 2 D 15/00 3 O 1 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2008-3542 (U2008-3542)
(22) 出願日 平成20年5月29日 (2008.5.29)(73) 実用新案権者 500030312
マックスバインディング株式会社
埼玉県三郷市新和1丁目178番地
(74) 代理人 100088605
弁理士 加藤 公延
(74) 代理人 100101890
弁理士 押野 宏
(74) 代理人 100098268
弁理士 永田 豊
(74) 代理人 100157288
弁理士 藤田 千恵
(72) 考案者 中島 正
埼玉県三郷市新和1-178 マックスバ
インディング株式会社内

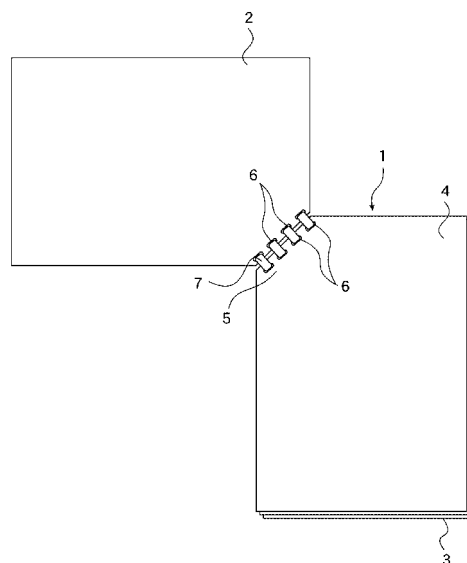
(54) 【考案の名称】 ノート類

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 リングからなる綴じ具を用いた場合に、比較的狭いスペースで不自由なく使用でき、かつ、用紙の回動範囲を少なくして使用者の負担を軽減したノート類を提供する。

【解決手段】 綴じ穴6が形成される多数枚の用紙4と、綴じ穴6に挿入されて用紙4を綴じ込む綴じ具7とを備えたノート類1において、用紙4の左右のいずれか一方の肩部をカットして、略45°に傾斜した綴込み縁5を形成する。この綴込み縁5に沿って複数の綴じ穴6を設けて、これらの綴じ穴6にリング状の綴じ具7を挿入することで用紙4を綴じる。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

綴じ穴が形成される多数枚の用紙と、前記綴じ穴に挿入されて前記用紙を綴じ込む綴じ具とを備えたノート類において、

前記用紙の左右のいずれか一方の肩部をカットして、略 45° に傾斜した綴込み縁を形成し、この綴込み縁に沿って複数の綴じ穴を設けて、これらの綴じ穴にリング状の綴じ具を挿入することで前記用紙を綴じてなることを特徴とするノート類。

【請求項 2】

前記用紙の上端側において、前記用紙の上端から下端までの長さに対して 1/3 以内の長さの範囲に、前記綴込み縁を形成したことを特徴とする請求項 1 に記載のノート類。

10

【請求項 3】

前記用紙を完全に開いたとき、90° 移動した位置にその用紙が到達するように綴じられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のノート類。

【請求項 4】

前記ノート類の表裏の差異を設けずに、表裏のいずれからでも用紙の使用ができ、用紙を開く方向を左右のいずれかにするかを使用者が決定することを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれかに記載のノート類。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

20

本考案はノート類に関し、特に、斜め方向に開くように綴じられたノート、メモ帳等を含むノート類に関する。

【背景技術】**【0002】**

公知のノート類は、多数枚の用紙を綴じるに際し、例えば、一本の金属線材を加工して螺旋状に設けられたスパイラルリングやツインリング等の綴じ具が用いられている。綴じ具としてスパイラルリングを用いたノートは、多数枚の用紙の上端、又は左右端の一方に綴じ穴をなす丸穴が形成され、この丸穴にスパイラルリングを挿入することによって用紙が束ねられる構成である。

また、綴じ具としてツインリングを用いたノートでは、用紙の一端に形成された平面視略方形の綴じ穴をなす角穴に各二本のリングを挿入することにより用紙が束ねられるようになっている。

30

【0003】

上記のような各ノート類は、それぞれスパイラルリング又はツインリング等の線形状に沿ってめくり操作可能となり、これにより、各枚の用紙に所要の筆記が行えるものとなる。このようなリング状の綴じ具を用いたときは、綴じられた用紙を、使用者から見て上下方向に開く、いわゆる天開き、または左右方向に開く中開きの 2 種類のものがあつた。

【0004】**【特許文献 1】特開 2000-141973 公報****【考案の開示】**

40

【考案が解決しようとする課題】**【0005】**

しかしながら、天開きのノート類では、これを使用する場合にノート類を置く場所において作業員から見て、このノート類を拡げることが可能な上下方向のスペースが必要である。ノート類を狭い場所で使用しなければならないことは、日常においてしばしば経験することである。

【0006】

また、中開きのノート類の場合は、使用者が右利きか左利きかの差異によって、右開きと左開きとの間に扱い易さの差が生じてくる。さらに、天開き又は中開きのノート類では、用紙をめくる場合に用紙の端部の回動範囲が比較的大きく、用紙を持つ手を広範囲に動

50

かさなければならぬため、手の動きが不自由なお年寄りや障害のある人等が使用するときには、用紙をめくる動作がしづらい場合がある。

【0007】

本考案者等は、種々検討を行った結果、比較的狭いスペースで不自由なく使用でき、かつ、用紙をめくる動作をしやすくし、かつ、綴じ具による用紙の綴じ位置が、用紙の有効使用面積を大きく損なうことがない実用上最もバランスのよい形態を見出して、本考案を完成するに至った。

【0008】

本考案は、このような知見に基づいて案出されたものであり、その目的は、比較的狭いスペースでも不自由なく使用でき、かつ、用紙をめくり動作をしやすくして使用者の負担を軽減したノート類を提供することにある。

10

【課題を解決するための手段】

【0009】

前記目的を達成するため、本考案は次のように構成されている。

すなわち、綴じ穴が形成される多数枚の用紙と、前記綴じ穴に挿入されて前記用紙を綴じ込む綴じ具と、を備えたノート類において、

前記用紙の左右のいずれか一方の肩部をカットして、略45°に傾斜した綴込み縁を形成し、これらの綴込み縁に沿って複数の綴じ穴を設けて、この綴じ穴にリング状の綴じ具を挿入することで前記用紙を綴じてなることを特徴とする。

20

【0010】

このようなノート類は、従来にない斬新な形態であって、用紙をめくる方向が斜めであるので用紙をめくりやすい。また、メモ帳など比較的小さいものであるときは、片手で拵げてその状態を指で保持することができ、機能性に優れたものとなる。

【0011】

また、用紙の上端側において、用紙の上端から下端までの長さに対して1/3以内の長さの範囲に、前記綴込み縁を形成することが好ましい。このようにすれば、用紙のめくり易さが損なわれず、かつ用紙が有効使用できる範囲を十分確保することができる。

【0012】

前記用紙を完全に開いたとき、90°移動した位置にその用紙が到達するように綴じることが好ましい。このようにすれば、めくられた用紙の向きが垂直方向から水平方向に変化するので、用紙の表面を縦方向（縦長）に、裏面を横方向（横長）に使用することができる。

30

【考案の効果】

【0013】

本考案に係るノート類は、比較的狭いスペースで使用でき、かつ、用紙のめくる際の動作をしやすくして使用者の負担を軽減することができる。

また、表裏のどちらかでも使用できるようにすれば、使用者の左利き右利きにかかわらずめくりやすいユニバーサルデザインのものとすることが可能である。

【考案を実施するための最良の形態】

【0014】

以下、本考案の実施の形態について、添付図面を参照しながら説明する。

40

図1は、本考案に係るノート類であるノートの全体斜視図である。ノート1は、表裏一対となる第1表紙2及び第2表紙3と、各第1、第2表紙2、3間に設けられた多数枚の用紙4と、を備えている。また、用紙4には、長方形の左肩部をカットするようにして、略45°に傾斜した綴込み縁5が形成されている。図1に示すノートは、この綴込み縁5に沿って、4個の円形の綴じ穴6が並設され、これらの綴じ穴6には、らせん状に形成した綴じ具7が挿入されている。また、図2及び図3に示すノートは、綴込み縁5に沿って、4個の楕円形の綴じ穴6が並設され、これらの綴じ穴6には、らせん状に形成した綴じ具7が挿入されている。

前記ノート1では、前記綴込み縁5の傾斜角度を略45°にすることで、用紙4等を完

50

全に開いたとき、 90° 移動した位置にその用紙が到達する。このとき、めくられた用紙の向きが、当初の縦長の垂直方向から横長の水平方向に変化するので、用紙の表面を縦長に、かつ裏面を横長に使用することが可能となり、これらを適宜、使い分けるようにしてもよい。

【0015】

この例では、前記用紙の上端側において、前記用紙4の上端から下端までの長さに対して約 $1/5$ の長さの範囲に、前記綴込み縁5が形成されている。通常、めくり易さ、用紙の使用面積の確保等を考慮して、用紙4の上端から下端までの長さに対して、 $1/5$ から $1/3$ 程度の範囲に綴込み縁5を設けることが好ましい。

【0016】

前記綴じ具7は、細幅の長尺な合成樹脂板をらせん状に成形したものであるが、綴じ具は、このようなものに限られず、図5に示す例のように、一本の金属線材を曲成し、全体としてらせん状に加工したもの等、どのような形態であってもよい。

【0017】

所定数の用紙が綴じられたノート1は、図1及び図2に示すように、第1表紙2や用紙4を開くと、開かれた表紙や用紙は、元の位置から左上方に 90° 移動した位置に到達する。このとき、用紙4等の移動に伴う回動中心部分は、比較的短い綴込み縁5に限られ、用紙4等の回動方向も左斜め上方であるため、用紙4等をめくる手の動きが無理のないものとなる。用紙4等を水平方向にめくる場合に比べて、使用者の手首部分の回転動作が少なくなり、腕の肘を伸ばす動作により用紙がめくれるので、使用者への負担が軽減される。また、手が動き安い動作で用紙がめくれるため、用紙をめくるスピードを速くすることが容易にできる。また、多くの場合、左上方に用紙が移動すれば、用紙を水平方向にめくられた場合に比べ、めくられた用紙が邪魔になることが少ない。

【0018】

また、図2に示すように、用紙4等の左肩部は使用できない欠落した部分（カットされた部分）が生じる。しかし、用紙4等の上端部は、通常、空白をおいて使用され、かつ文字等を縦書きする場合は、文字等を用紙の左端に記入する段階に至って初めて上部が使用できなくなる程度である。したがって、実質上、使用上の不便はほとんど生じない。

【0019】

さらに、横書きで文書作成をする場合であっても、上端に空白をとり、特に文字等を左端から書き始めなければならない必要性がない限り、使用上の不便はない。むしろ、用紙4等を容易にめくれるため、取り扱い性に優れた長所を持つ機能的なノートとして使用することができる。

【0020】

なお、綴じ具7の径と、それが挿通される綴じ穴の直径の比率を $10:12$ 程度の割合にすることで、少ない綴じ穴に挿通した綴じ具7により綴じられたものであっても、用紙4等の面方向への移動を抑えて、これらをしっかり固定することができる。用紙の面方向への移動が非常に僅かなものとなり、支障なく筆記が可能であって、用紙のめくり動作も不都合なく行える、

また、綴じ具7がリング状であるため、綴じられた多数枚の用紙4には、表裏から、ある程度の締付力が作用することとなる。したがって、用紙4は、筆記に際してほとんど移動することがない状態に保持される。

この例では、綴じ穴6を円形または楕円形の穴としたものを示したが、本考案はこれらに限定されるものではない。さらに、綴じ穴の数についても限定されることがないのはいうまでもない。

【0021】

図5は、全体のサイズが小さいメモ帳とした場合を示す平面図である。このメモ帳は、綴込み縁5に合計8個の円形の綴じ穴6が並設され、らせん状に形成した綴じ具7が挿入されている。

10

20

30

40

50

図 5 に示すような、全体のサイズが小さいメモ帳とした場合においては、用紙の開閉が多くなるので、簡単にめくれる機能性が利点として大いに生かされる。このようなメモ帳など、比較的小さいものであるときは、右手に筆記具を持ち、左手でこれを拡げ、その状態を指で保持することができるので便利である。

【0022】

さらにまた、第 1 表紙 2 と第 2 表紙 3 は同じものを使用すれば、表裏のどちらからも同様に使用を開始することができ、図 4 に示すように表紙を左上方ではなく、右上方に開くようにすることができる。このようにすれば、使用者が左利き、右利きであるかにかかわらず、使用し易い側から使用することができる。

【図面の簡単な説明】

10

【0023】

【図 1】本考案に係るノートを展開した状態の斜視図である。

【図 2】本考案に係るノートを展開した状態の平面図である。

【図 3】綴じ具と表紙（用紙）に設けた綴じ穴を示す平面図である。

【図 4】ノート類を裏返して、図 2 に示す場合と反対の方向から用紙をめくるようにした状態を示す平面図である。

【図 5】本考案に係るメモ帳の平面図である。

【符号の説明】

【0024】

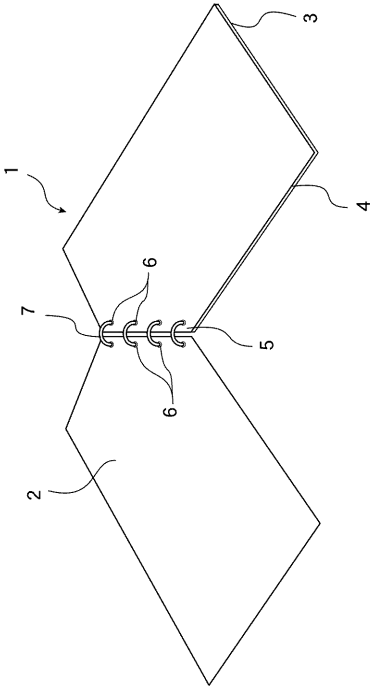
- 1 メモ帳（ノート類）
- 2 第 1 表紙
- 3 第 2 表紙
- 4 用紙
- 5 綴込み縁
- 6 綴じ穴
- 7 綴じ具

20

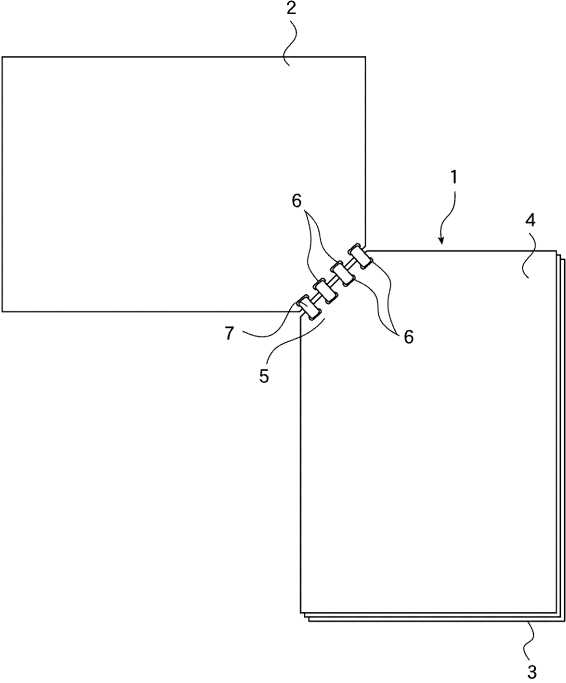
30

40

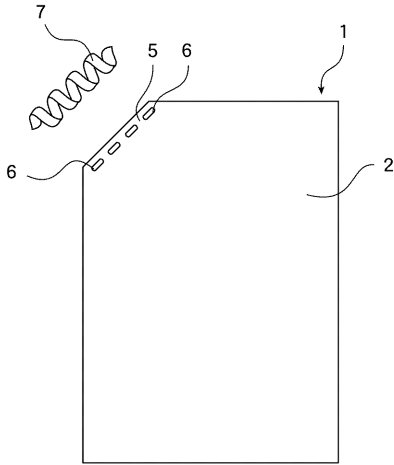
【図 1】



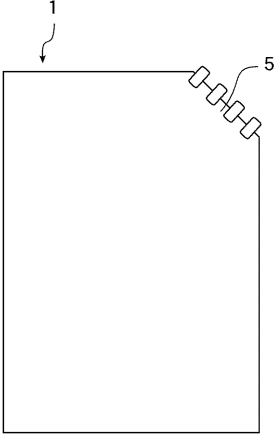
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

